

学齢期の発達障害

～学校と家庭に起因する二次障害を中心に～

*当財団(講座)は「臨床心理士」資格取得者の研修機会として、(公財)日本臨床心理士資格認定協会より「短期研修機会(ワークショップ)」の承認を受けております。 <承認期間:2017年7月1日～2022年6月30日 承認番号:W29111>

期 間：2020年10月17日(土)～11月13日(金) ※11月3日(祝)は除く

- ・火曜日～金曜日の午後
 - ・土曜日の午前または午後
 - ・10月25日(日)の午前または午後
- } のいずれかのご希望日

※第三希望まで、必ず通信欄にご記入・ご入力ください

受講対象：教育・医療・相談・福祉・保育の各機関・現場で、子どもに関わる専門家および興味のある方々

定 員：各回5名 本講座は事前にビデオ収録し、当日講義室で上映する講座となります
(定員になり次第締切りますのでホームページなどでご確認ください。先着順となります。)

受講料：6,000円(税込み)

主催：公益財団法人 明治安田こころの健康財団 TEL 03-3986-7021

会場：明治安田こころの健康財団 講義室 ※詳細地図は受講証に添付いたします
東京都豊島区高田3-19-10

★★★★★ 企画講師 ★★★★★

本田 秀夫 先生

信州大学医学部子どものこころの発達医学教室 教授
・医学部附属病院子どものこころ診療部 部長

発達障害は、生来性の脳機能の異常によって日常生活にさまざまな支障の出る状態の総称です。支援では、発達障害について本人および周囲が理解して、適切な生活環境が保証されることが重要です。しかし現状では、周囲の無理解や誤解によって、発達障害のある人たちが日常生活のなかでさまざまなストレスを受け、ときにトラウマ体験となることが指摘されています。

学齢期の子どもたちにとって、無理解や誤解によるストレスやトラウマ体験の最大のリスクとなるのは、学校と家庭です。そのことは以前から知られていましたが、新型コロナ・ウィルス感染症の流行に伴う学校の一斉休校とその後の再開のプロセスの中で、学校、とくに公教育の義務教育課程に、発達障害の子どもたちにとってストレスのリスクが多く潜んでいることが露呈されたといえます。

この講座では、発達障害に関する基礎的な知識から、新型コロナ・ウィルス感染症流行に伴う社会環境の変化が及ぼした発達障害の学齢児への影響まで、学齢期の発達障害に関する問題について考えたいと思います。
【企画講師 本田 秀夫】

【プログラム】

	時間		テーマ
	午前の部	午後の部	
各 日	8:00～9:00	13:30～14:30	講 義 1 <ビデオ講座>
	9:10～10:10	14:40～15:40	講 義 2 <ビデオ講座>
	10:20～11:20	15:50～16:50	講 義 3 <ビデオ講座>
	11:30～12:30	17:00～18:00	講 義 4 <ビデオ講座>

※時間割・テーマ等が変更となる場合があります。予めご了承ください。